

平成 30 年 1 月 26 日

第 3 回講演会報告

広報 谷田耕三

1 月 25 日、「中川運河の歴史と今後の展開」という演題で、ナディアパーク市民活動センター集会室で行われました。

このところの寒気襲来で、名古屋の今日の気温は朝の最低気温が -3.5°C 、最高気温は午後 1 時で 1.7°C と震え上がる様な 1 日でしたが、考える会会員 41 名、32 期生 3 名が参加しました。講師は伊勢湾フォーラムの柳田哲雄氏です。

13 時 30 分、G-III 高橋理事の司会で始まり、阪野代表からの挨拶の後、講演開始です。

中川運河は第一次世界大戦を契機に名古屋市の工業都市化が急発進し、物流機能強化のために計画され、その目的は、鉄道輸送と舟運のドッキング、松重閘門経由による堀川の混雑緩和、工場誘致など。1930 年（昭和 7 年）全線 6.4 km、開通当時は東洋一の大運河でした。しかしながら、現在は名古屋港の接岸岸壁の整備、トラック輸送の増大、コンテナ化によりによる舟運の減少の為、運河としての役目は終わっています。

中川運河再生計画としては、平成 24 年 10 月に名古屋市、名古屋港管理組合から様々なプランが提示されました。最近の話題としてはささしまライブ 24、定期船の就航、平成 30 年秋の港区役所近くに大型商業施設完成予定があります。

最後に水質の話があり、中川運河の透明度は今のところ堀川より悪いとのこと。将来、松重閘門経由で中川運河と堀川を連結する案もあり、改善が必要です。

中川運河についていろいろな話が聞けました。3 時過ぎ終了となりました。

